

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム ふなお
日付	平成19年3月31日
	特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験18年
評価調査員	在宅介護経験13年
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>利用者の家族や利用者を取り巻く環境について、現在だけでなく過去の状況もすべて考慮した上で、利用者一人ひとりが希望することを実現するために全力を尽くし、暮らしに精神的安定をもたらそうとしている。</p> <p>そのために、利用者の声を聞き漏らさないように努め、また、どの職員でも同じ対応ができるように意思統一を心掛けている。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>居室を始めリビングの食卓やソファ、リビングから出入り自由なベランダなど利用者は自由な居場所を選ぶ事が出来る。それぞれの場所で好きなことをして楽しく過ごせるように、観葉植物を配置したり、日常の写真を掲示したり、生き物を飼育したりしている。また、いつでも楽しめるようにリビングでは手芸材料を置いてあったり、音楽を流していたりする。敷地内にある畑では収穫を楽しめ、地域の人との交流もできる。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人できることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
<p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>設立して2年経過して、ケアマネジメントの中で、一番重点的に実施しているのが、『利用者の一人ひとりの希望や意志を実現してあげる』という最も基本的な事に挑戦している。利用者が言葉や表情で表出する気持ちを受け止めることの重要性はこのグループホームでも認めている事であるが、それを具体的にどのような方法で実行していくかをテーマにあげている。</p> <p>週3日、個別ケアの時間を設け、1人の利用者に1人の職員が対となって付き合い、利用者のしたいこと、行きたい所、食べたい物、話したい事等の気持ちを逃さないで、すぐに実行してあげられるよう努力している。これは、認知症利用者の心に目線を合わせてコミュニケーションをするという術を職員が自然に養う事になり、その人の心にある希望を実現してあげることにより、その人との信頼関係が高まり、心の交流がさかんになり、利用者の心の広がりが増えて、その人なりの生活がどんどん高まっていきかけづりができる。これは認知症ケアの言うは易く、実行する難しさの最も効果のあることへの挑戦である。これを実践することにより、職員の質の向上と共に、ケアサービスの質の向上につながっていき、この利用者との職員との付き合いの結果があちこちで見られた。今後は日常の当たり前に行えるようにしたいと言っている。</p> <p>この実践の日々の記録を、利用者と職員との会話で残したり、利用者の表情の変化や行動状態など一件一件を細かく残しておく、もう一つの目指しているケアのマニュアル作りにも役立つであろう。</p> <p>利用者との職員の間で、わがままな希望が叶えられ、利用者同士でも助け合いながら楽しい生活が送れる集団生活と、自分らしさを作り上げていける個人生活が調和して、一人ひとりが生き甲斐を感じてもらえるグループホームが間もなく出来上がることを期待していきたい。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>次のような提案をした</p> <p>日常たくさん写真を撮っている。ホーム全体や個人アルバムにして利用者や家族が見れるようにしてもらいたい。そして1人1枚の写真を取り、その写真にもった背景や思い出をしっかりと時間をかけて話しをして、感動などの気持ちをしっかりと高める事により、記憶に残す工夫(リハビリ)をしてみてもどうでしょう。</p>
III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>一人ひとりの利用者が家庭にいた時には当たり前に出ていた事を、このホームでも同じようにできるように、利用者から聞き出した希望をできるだけ実現しようとしている。</p> <p>ホーム内では好きな場所で好きな事を自由にして過ごす事ができ、ホームの外へも利用者の希望する所へ出掛けて行く。買い物や外食、バス旅行など1人ずつや数人ずつでも、また、全員でも出掛け、利用者の希望を実現する事で、精神的な安定をもたらそうとしている。</p> <p>職員は利用者一人ひとりの経歴や性格を十分把握して、その人の興味や好みに合わせて話しをしたり役割や作業をさせてあげたりしている。また、個室にいたことが多く人には個室で話しを聞いてあげている。このように利用者の望む気ままな生活が出来るように支援する努力をしているが、まだ自分の気持ちや希望を表出できない人もあるので、その人達の望みを引き出してあげることに力を注いで欲しい。</p> <p>記録方法の改善への努力も見え、かかりつけ医への受診支援など健康管理も整っている。職員間の情報伝達は確実に行われているものの、職員の意見交換や意思統一の為の話し合いの機会が減っている。会議の議事録や職員の意見の記録もしっかり残しておきたい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	<p>利用者一人ひとりの希望に応じるケアを全職員が同じように対応出来るように心掛けている。管理者がいないときでも、職員が交替しても同じ雰囲気やケアできるように、ホーム独自のマニュアルを作成しようとしている。それに取り組む管理者と主任達の意気込みは素晴らしい。ここで初心に戻り、一般職員との会議や話し合いも大切に、自由な意見ノートの活用などにより、職員間の意思統一を図ってもらいたい。</p> <p>家族へはホームの「たより」を送ったり個人の生活状況を知らせ、自由に意見を言ってもらえるような環境づくりをしている。地域からはボランティアに来てくれる人がある他、ホームの運営推進会議を通して地域に認知症の理解を深めてもらい、交流や連携を図ろうとしている。</p> <p>地域の老人会や保育園、小中学校などとの交流を図り、出入り自由な自然の交流が出来れば、生活にもっと潤いができると思う。</p>		